

森林・林業・木材産業の現状

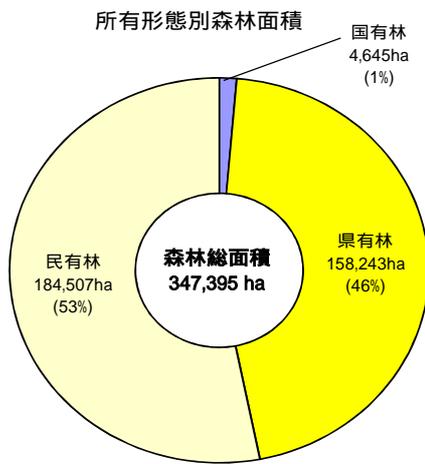
参考資料

森林の現状

本県は、県土面積の78% (34万7千ha)を森林が占め、森林率は、高知県、岐阜県、島根県、長野県に次ぐ全国第5位と、有数の森林県である。

所有形態別では、国有林が4,645ha(1%)、県有林が158,243ha(46%)、民有林が184,507ha(53%)と、明治末期の水害からの復興のため、県内の入会御料地のすべて(約16万4千ha)が県に御下賜(明治44年)されたことにより、県有林が占める割合が全国一と、県有林が多く、原木の安定供給が可能となっている。

県有林は、世界基準により森林を認証する「FSC森林管理認証」を公有林では全国で初めて取得(H15.4)し、認証材製品としての販売が可能である(認定面積14万3千ha 全国1位)



H26.3.31現在

出典: 山梨県林業統計書

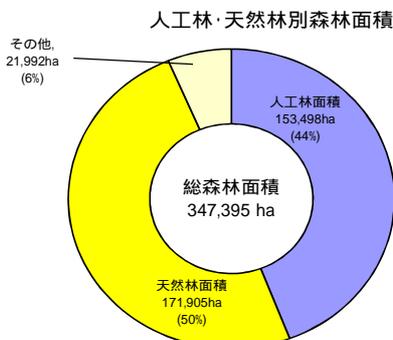
認証取得面積上位5者

認証取得者	面積 (ha)
山梨県	143,000
三井物産(株)	44,417
天竜林材業振興協議会	43,238
(社団法人)兵庫みどり公社	25,165
日南町森林組合	19,529

FSC森林管理認証制度:

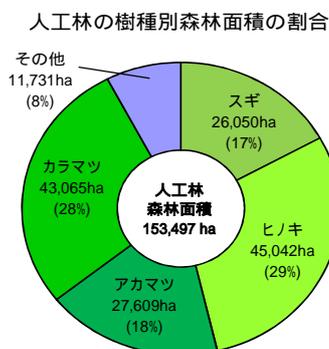
環境に配慮した一定の基準、企画等を満たす森林経営が行われている森林を認証する制度のことで国際NGO組織FSC(森林管理協議会)により行われているもの

人工林・天然林別森林面積では、人工林が153,498ha、天然林が171,905ha、その他21,992haとなっており、人工林が、森林全体の44%を占め、樹種構成では、建築用材となるスギ・ヒノキ・アカマツ・カラマツの4樹種がほぼ均等に存在する。

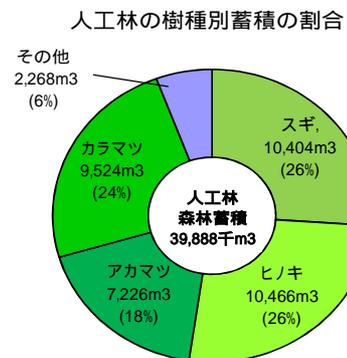


H26.3.31現在

出典: 山梨県林業統計書

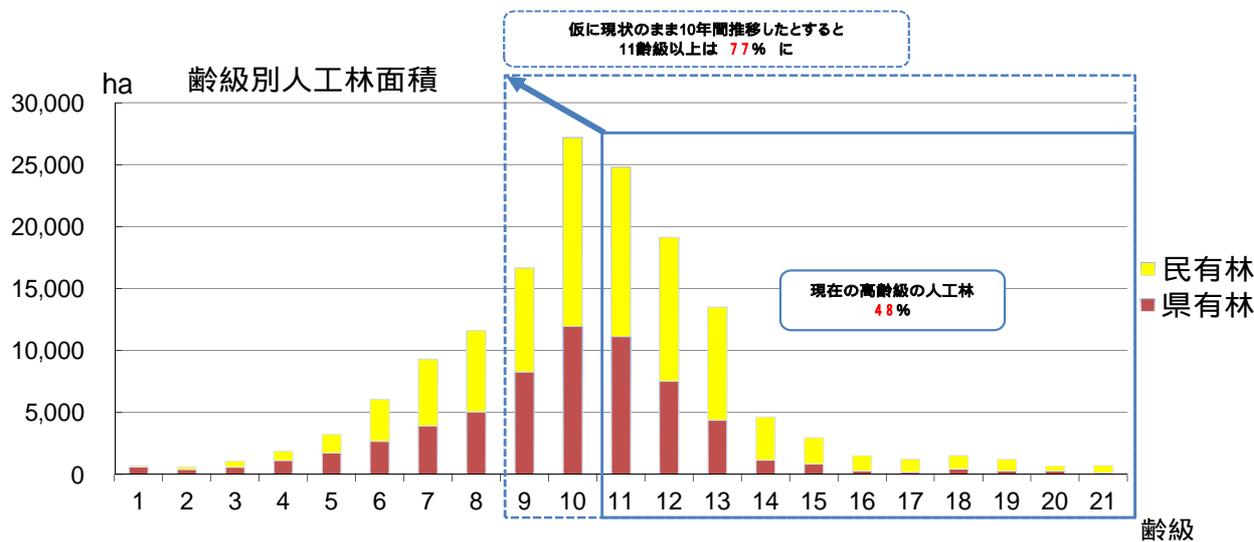


H26.3.31現在



H26.3.31現在

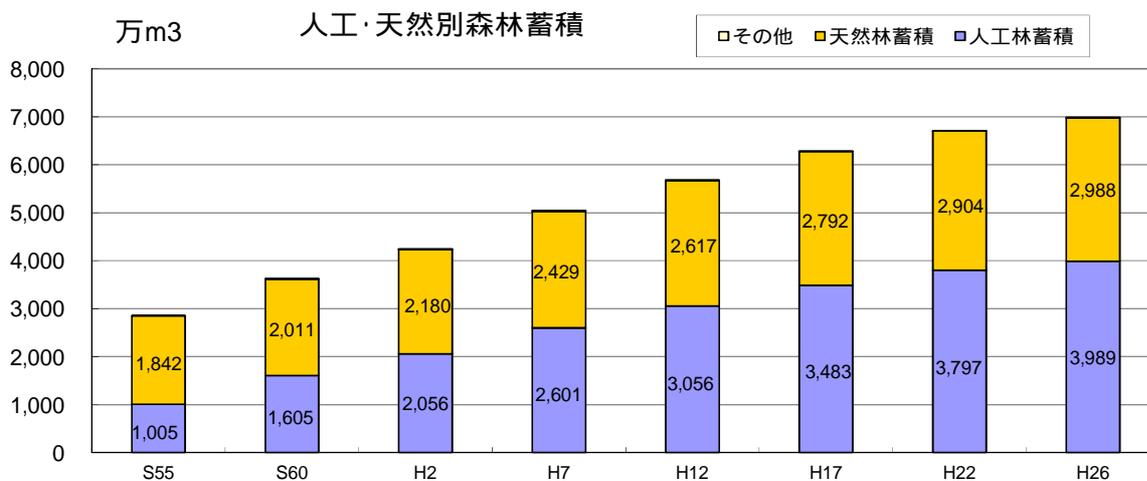
人工林の齢級構成をみると、木材として利用可能となる概ね50年生以上(高齢級)が年々増加しており、平成26年3月末現在では48%であるが、現状のまま推移した場合、10年後には77%まで増加すると見込まれる。



平成26年3月31日現在
 齢級の単位は5年(林齢1~5年生が1齢級)

出典: 森林簿集計データ

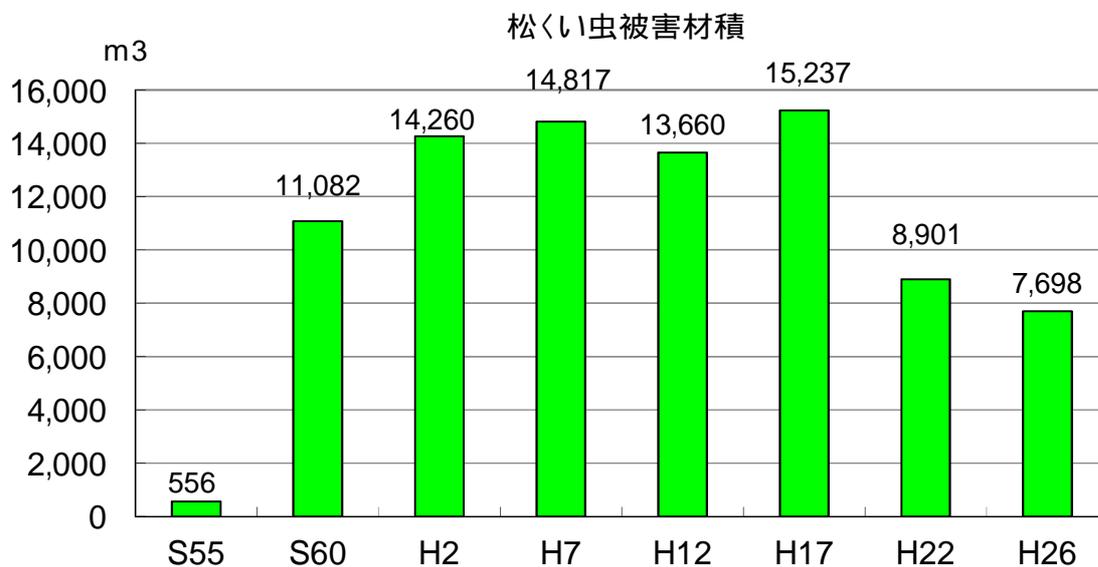
造成された人工林が生長した結果、蓄積量は年々増加し、35年前の約2.5倍の6,977万m³となり量的には充実してきている。



出典: 山梨県林業統計書

森林被害の状況

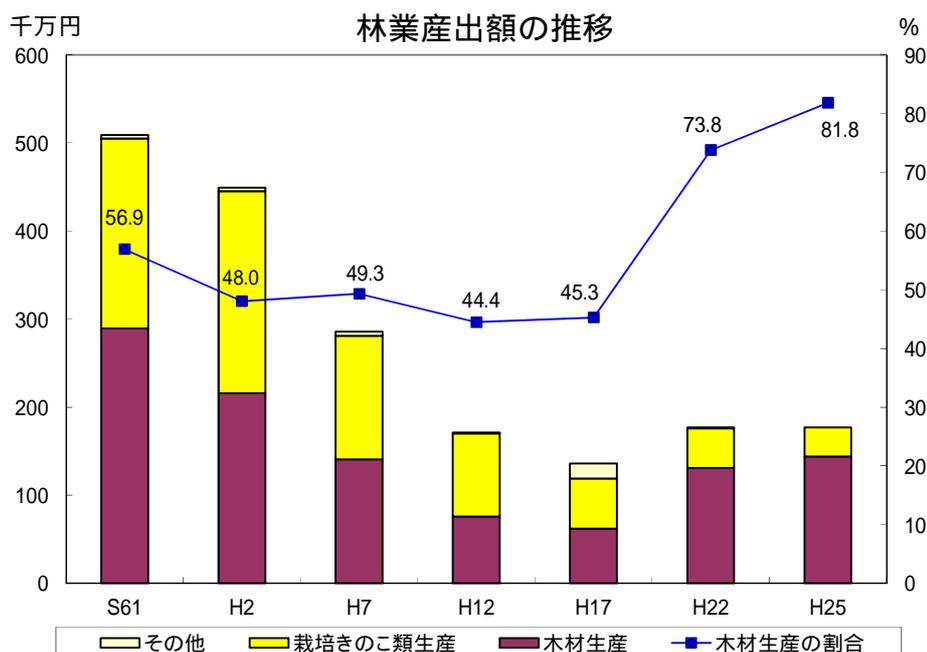
本県での松くい虫による被害は、昭和53年に初めて確認され、近年では減少傾向がみられるものの、富士北麓地域等の標高の高い地域に被害が拡大しており、平成26年度には被害材積7,698m³となっている。



出典：森林整備課 資料

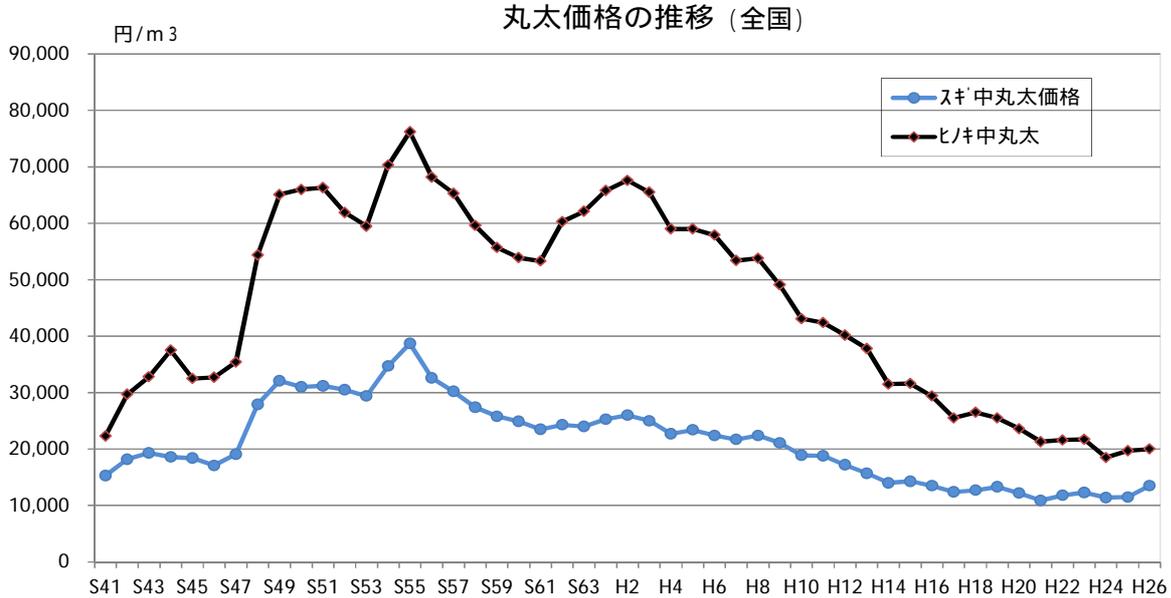
林業の現状

本県の林業生産額は平成22年度には増加に転じたが、28年前と比較する3分の1程度であり、特に特用林産物の生産額が著しく減少している。



出典：農林水産省 生産林業所得統計

国産材丸太の全国価格は、昭和55年のヒノキ1m3当たり76,400円、スギ1m3当たり39,600円をピークに長期的な下落傾向にある。



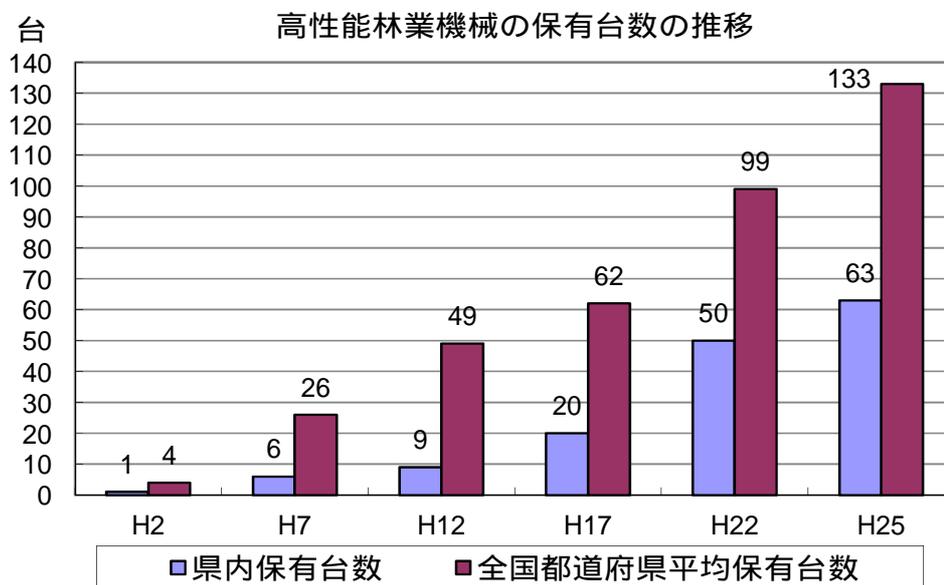
出典: (財)日本木材総合情報センター「木材情報」

素材生産量は、昭和35年の72万m3をピークに減少し、平成14年には4万4千m3にまで減少した。しかし、平成21年には木材チップ生産量の拡大から16万5千m3に急増したが、以後横ばいの状況となり、平成26年度には15万6千m3となっている。



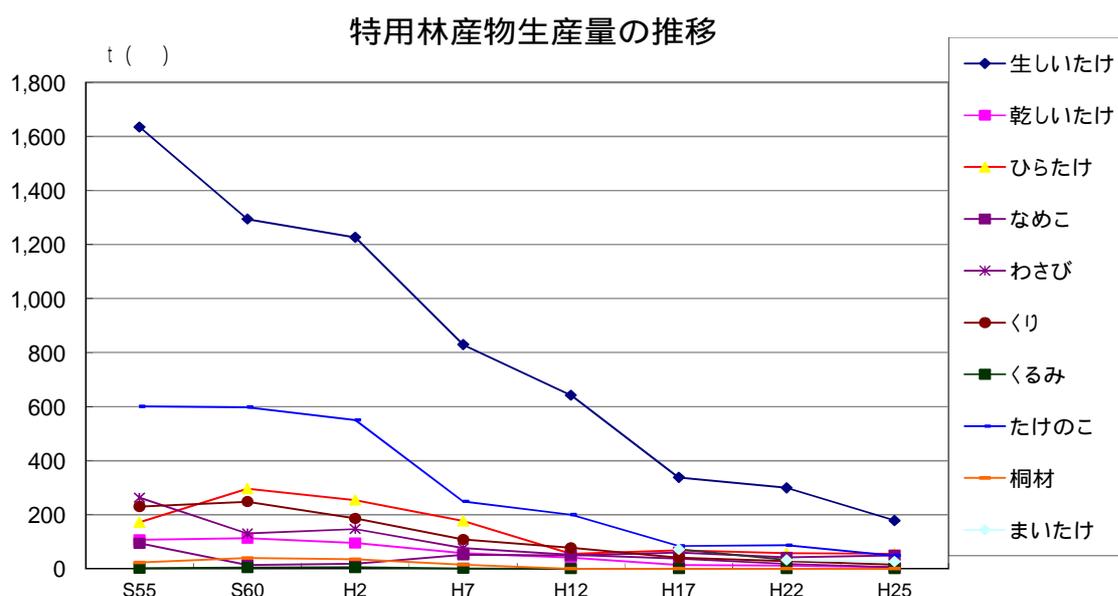
出典: 農林水産省「木材需給報告書」

県内の高性能林業機械の保有台数は、年々増加傾向にあるが、県別の平均保有台数の5割程度に留まっている。



出典：林野庁「林業機械保有状況調査」

特用林産物の生産量は、減少傾向にあり、特に生しいたけの生産量は昭和55年度には1,635tであったが、平成25年度には178tまで落ち込んでいる。

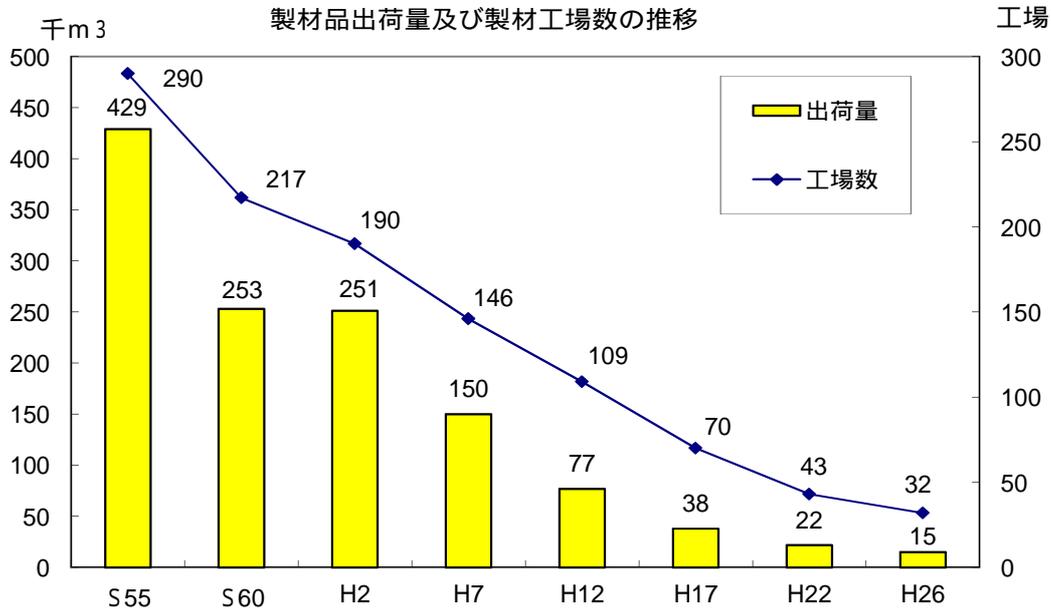


「桐材」のみ、単位は「t」ではなく「m3」

出典：山梨県林業統計書

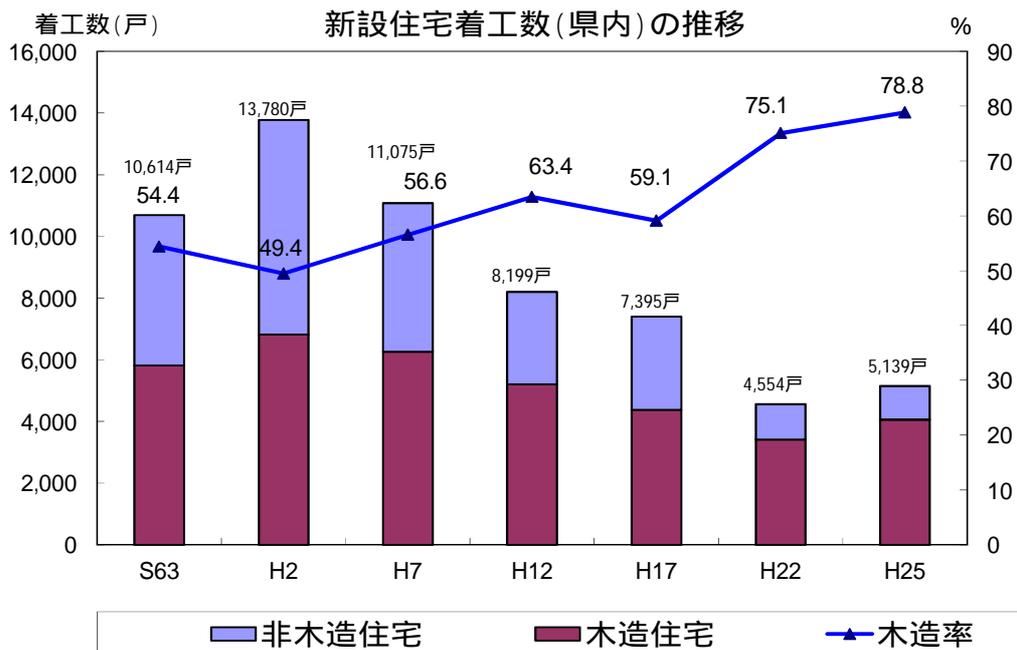
木材産業等の現状

製材工場数は昭和55年の1割程度まで減少するとともに、製材品の出荷量も3%程度まで落ち込んでいる。



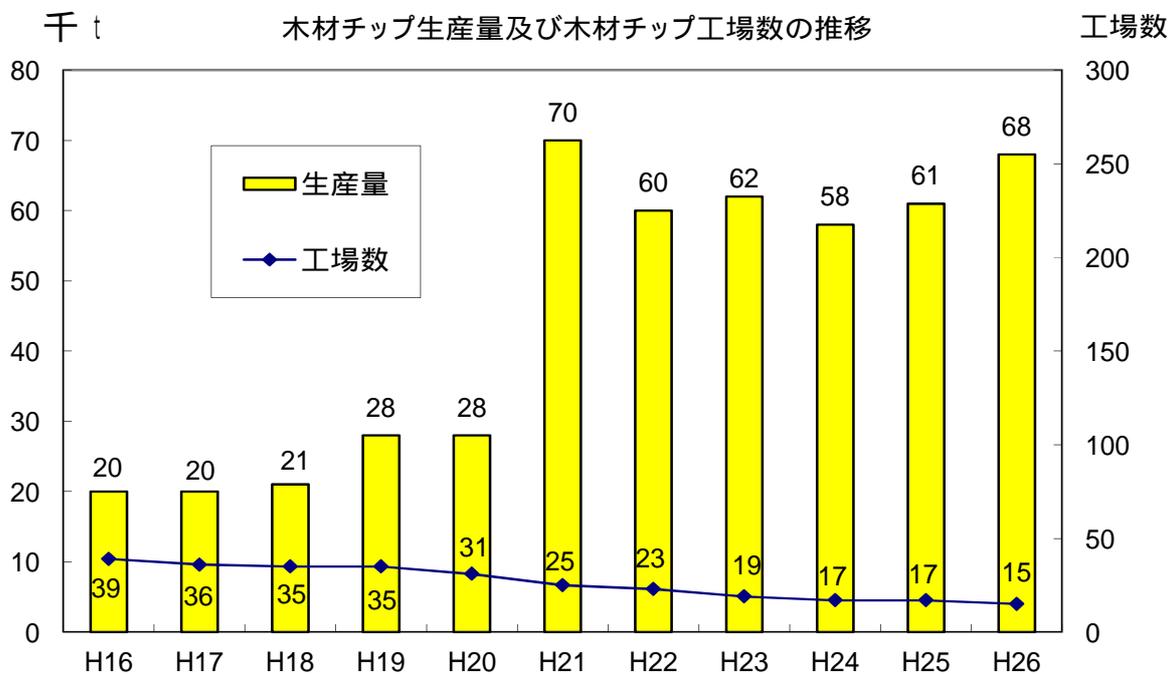
出典：農林水産省「木材統計調査」

新設住宅着工戸数は年々減少傾向にあったが平成22年度以降持ち直し、木造率についても増加傾向にあり、平成25年度には79%を占めている。



出典：国土交通省 住宅着工統計

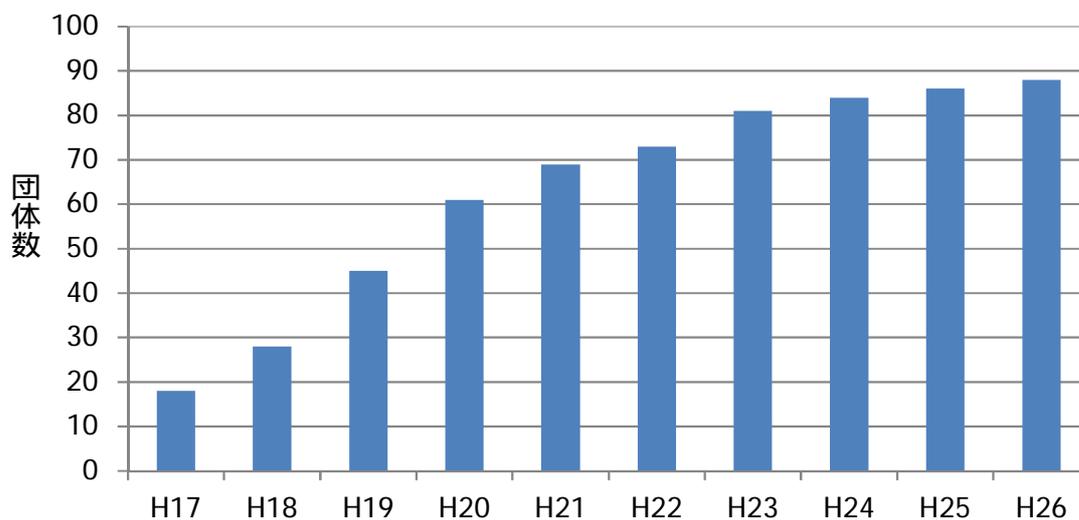
木材チップ工場数は、10年前の半分以下まで減少したが、木材チップ生産量は需要量の拡大から平成21年度に急増し、平成26年度には6万8千トンとなっている。



森林空間の利用の現状

県内の森林ボランティア団体数は、年々増加し、平成17年度の18団体から平成26年度には88団体となっている。

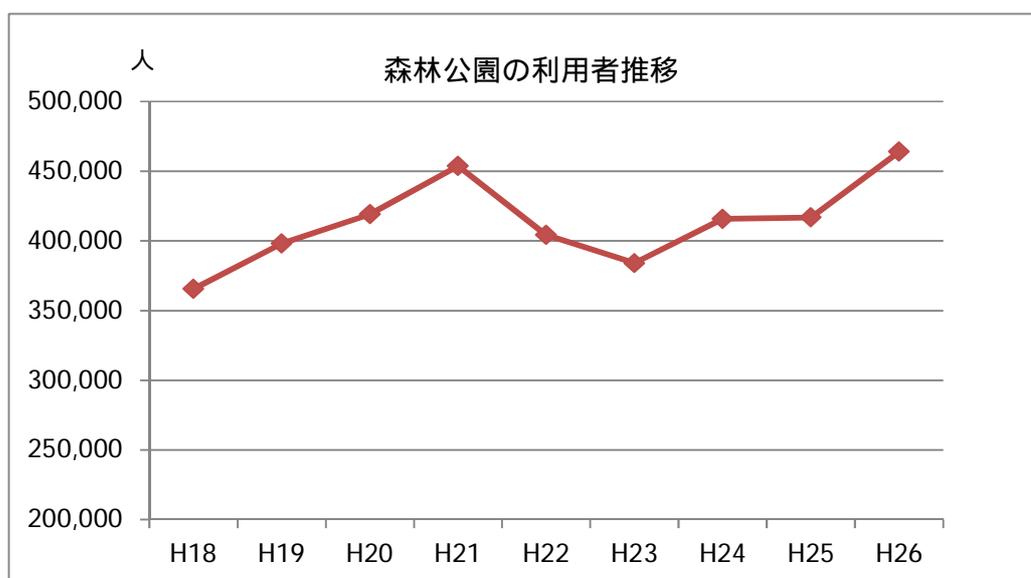
森林ボランティア団体数の推移(県内)



団体数には、企業の森活動に取り組む会社、団体を含む。

出典：林業振興課 資料

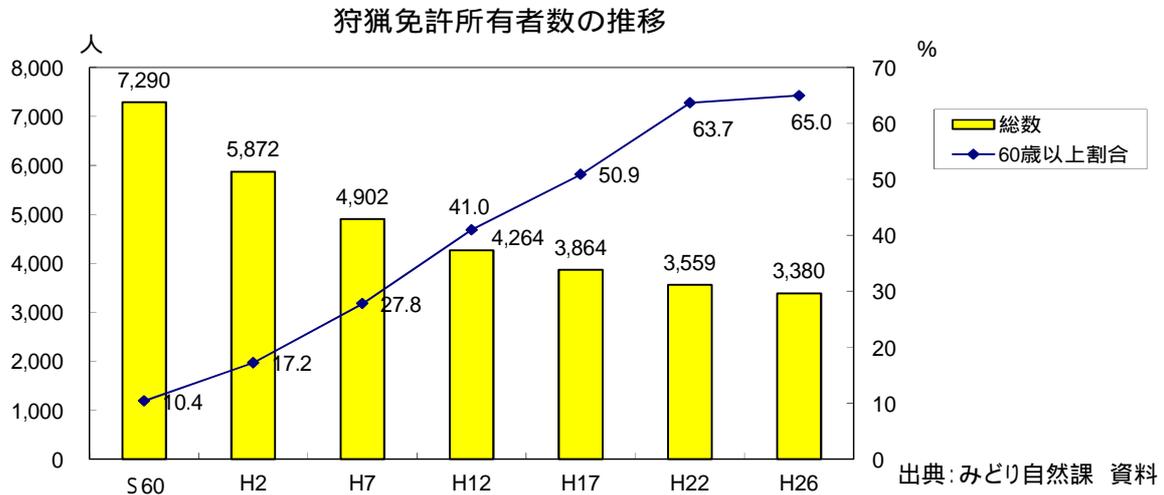
森林公園(武田の杜、金川の森、県民の森)の利用者数は、天候等の影響とみられる増減はあるが、毎年40～45万人で推移し、近年は増加傾向を呈している。



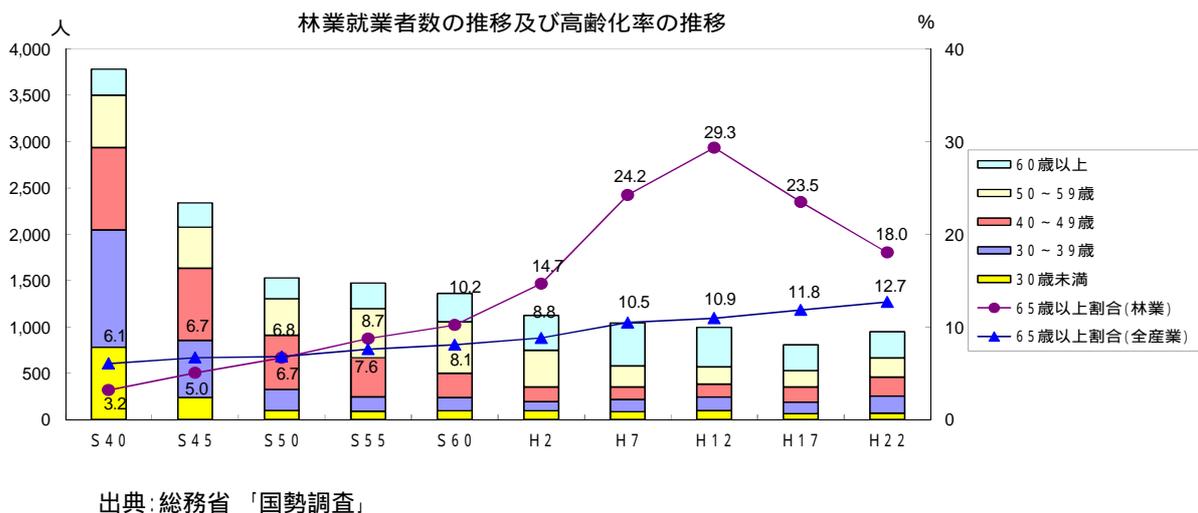
出典：県有林課 資料

担い手の現状

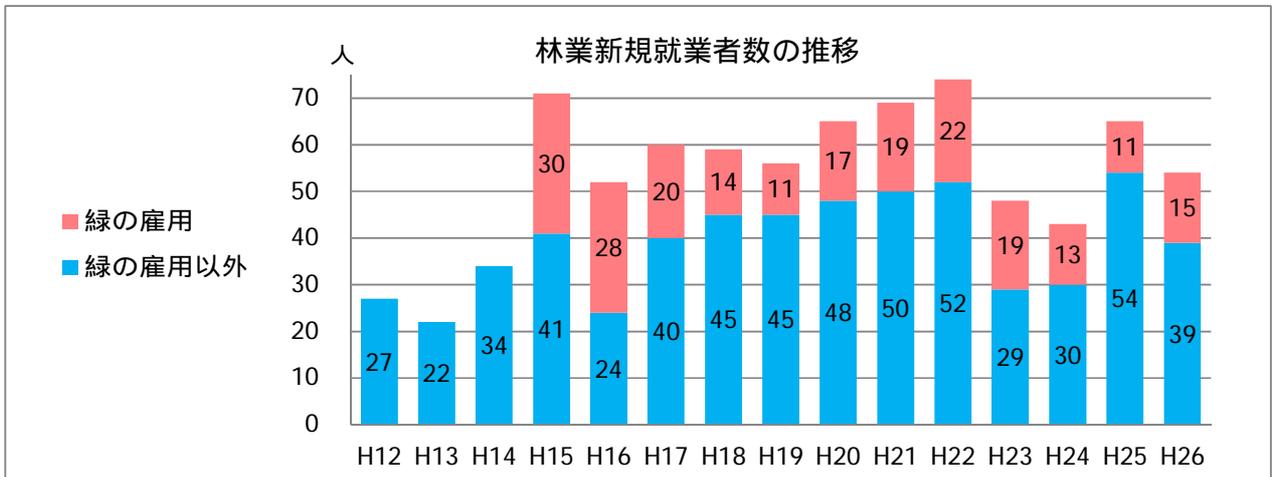
野生鳥獣捕獲の担い手である狩猟者は年々減少し、平成26年度の狩猟免許所有者数は、昭和60年度の半分以下となっている。また、60歳以上の割合が65%と高齢化が進行している。



県内の林業就業者は、平成22年には948人となり、平成17年に比べると139人増加しているが、林業の高齢化率(65歳以上の就業者の割合)は18.0%で、全産業平均の12.7%を上回っている。



林業の新規就業者数は、平成19年度から増加傾向を呈し、平成22年度には74人であったが、近年は40～60人の間で推移している。



出典：林業振興課 資料